

とうわ
藤和けんこう通信



2015年7月号 VOL.57

町田市訪問マッサージ連絡会が発足！

発行元：藤和マッサージ（訪問マッサージ・はりきゅう）

相模原院042-855-0420 町田院042-851-7528 海老名院046-204-5482

町田市

『訪問マッサージ連絡会』発足！！

2015年6月1日(月)、町田市民フォーラムにて町田市訪問マッサージ連絡会の設立総会が開催され、無事に『訪問マッサージ連絡会』が発足いたしました。昨年の秋から準備を進め、スマイルサポート信田会長を筆頭に準備委員会を開催し、町田院営業の近藤も毎回準備委員会に出席し、話し合いを重ねてきました。当院代表の須藤が『町田市訪問マッサージ連絡会』初代副会長に就任させて頂きました。



設立目的

- ・地域包括ケアシステムの一員として
多職種連携を図り、地域社会に貢献する
- ・関係機関(エリア会議・地域ケア会議・行政)からの連絡・要望を取りまとめ、連絡会で情報共有
- ・マッサージ事業者同士の顔の見える関係づくり
- ・マッサージ施術者の質の向上

活動の第1弾として訪問マッサージについての『多職種意見交換会』を開催しました(詳細は次ページ)

町田市訪問マッサージ連絡会
Machida Visiting Massage



副会長
須藤 新
Shin Sudo

— 町田市訪問マッサージ連絡会事務局 —
〒194-0012 東京都町田市金町4-15-15 (東武 訪問鍼灸・あん摩マッサージ指圧院内)
TEL.042-798-2334 FAX.042-795-0750
— (所属事業所) 藤和マッサージ —
〒194-0022 東京都町田市金町4-17-23-2 階 B
TEL.042-851-7528 FAX.042-851-7882

当院代表の須藤が『町田市訪問マッサージ連絡会』初代副会長に就任させて頂きました。

い つ も 思 い や り あ る 対 応 を 心 が け ま す



池田裕美 馬場悦子 野々村颯 佐藤文子 石井武司 若本大輔 大野佑介 長谷川佳汰 代永涼子 岡本尚弥 尾崎弘康 細田篤矢 保川りさ
須藤 新 長谷川加代 佐藤浩嗣 板垣 鋭司 榎本多佳子 小木野貴史 近藤マチ子 岩本友保 石井 旭 矢部恵 禰 潤平 渡邊真之 添田眞理子

訪問マッサージについての

多職種意見交換会

開催 2015.6.10

主な参加者

町田市介護保険課課長

社会福祉法人理事長

訪問看護師

クリニック関係者

ケアマネージャー

グループホーム管理者

理学療法士

(訪問マッサージ関係者約20名程傍聴)

- 国の財源が厳しい情勢を踏まえて、中重度者に対象を絞った取り組みが必要ではないか(介護保険でも、中重度の方に重きをおき、軽度の方のサービスは減らされる可能性)
- 施術の効果として現状維持ではダメ、効果を客観的に示さなければダメ(介護保険の訪問リハの分野でも、客観的に効果を示さなければダメ、今後現状維持ではなく改善向上を国は強く求めてくるのでは)
- 効果を誰が見てもわかるような客観的で統一の評価シートがあれば良い(多職種連携のために)
- マッサージ施術者の質の向上を求める
- どのような時に訪問マッサージを利用すべきかわかりにくい。(訪問リハとの差別化)
- 同意書の問題(どういう病状・状態であれば同意書がもらえるか分からない)
- 保険ではなく自費でも患者さんが納得してくれる施術・サービスを提供するなど様々な貴重な意見が出ました

6月10日(水) 町田市商工会議所にて

町田市医療介護事業者交流会2015

6月27日(土) 町田市医療介護事業者交流会が盛大に開催されました。当院からは、須藤新・近藤マチ子・大野佑介が参加いたしました。余興では、様々な職種の方が混ざり合って、一心不乱にダンスする姿は圧巻でした。参加者480名と凄い人の熱気に包まれ、普段お会いできない方々とお会いすることができ、『顔の見える関係からその先へ』というテーマに倣い、まずはしっかりと顔の見える関係を作り、その先へつなげて地域社会にマッサージ施術で貢献したいと強く感じました。



技術研修会 開催しました！！



6月26日(金)

院持ち回りの研修会を開催しました！今回は町田院主催の『鍼実技』を行いました。講師を務めてくれた大野佑介さんが、丁寧に鍼の実技指導やゴルフボールを使った練習方法の指導をしてくれました。特に鍼の実技で片手で鍼を操作する技術がまだまだな参加者が大多数でしたので、参加者はさらに意欲をもって技術向上に努めます！！



営業員の私たちも、施術者の気持ちになって鍼の操作練習をしてみました！



微小カプセルでがん狙い撃ち…手術困難な患者治療に道

(2015年6月22日読売新聞)

がん細胞だけを狙い撃ちして治療する微小カプセルを開発し、マウスの実験で効果を確認したと、東京大の片岡一則教授(高分子化学)らの研究チームが発表した。正常な組織をほとんど傷つけることなく、がんを治療できる可能性があるという。カプセルの直径は約55ナノメートル(ナノは10億分の1)で、中にガドリニウムという元素が入っている。ガドリニウムは、中性子線が当たると放射線を出し、近くのがん細胞を殺す効果がある。カプセルは、血管からがん組織にしみ出すように作られ、がんを集まる性質を持たせた。研究チームは、カプセルを、がんを持つマウスに注射した。24時間後に、患部に向けて外から中性子線を当てると、患部に集まったカプセルからの放射線で、がんの増殖が大きく抑えられたという。

呼吸器外さず痰を自動吸引…九州保健福祉大など開発

(2015年6月19日読売新聞)

九州保健福祉大(宮崎県延岡市)の竹沢真吾教授(血液透析工学)らの研究グループは、人工呼吸器をつけたままで、痰を自動的に吸引できる装置を開発した。センサーで痰の有無を判断し、中が2層に分かれたチューブを用いて吸引する。

2016年の製品化を目指しており、患者や介護者の負担軽減につながることを期待できるとしている。病気や障害のため自力呼吸ができず、口から入れた管やのどを切開(気管切開)して人工呼吸器を着けている患者は、たまった痰を自力で排出することができない。このため、看護師らがチューブを気管に挿入し、痰を吸引する必要がある。吸引する際は人工呼吸器を外すため、患者は苦しさを伴う。また、自宅で介護する家族らにとっても、夜中でもたびたび行うことの負担は大きい。竹沢教授らは、空気の通り道となる層と痰を吸い取る層の、内部が2層に分かれたチューブを考案。呼吸をした時の空気の圧力をセンサーで感知し、痰の有無を判断する吸引装置と組み合わせた。息を吐いたタイミングに合わせて、痰を随時、吸引する仕組みだ。

痰の自動吸引装置は、全身の筋力が衰える難病「筋萎縮性側索硬化症」(ALS)患者などを対象に、大分県の企業が2010年までに薬事承認を受け、製品化している。気管切開した管の内側に痰の吸引口をつけ、少量の痰を常に吸い取る仕組みで、これまでに約850台が販売されているという。今回、竹沢教授らが開発した装置は、どんな人工呼吸器にも対応でき、真空ポンプを用いて個々の呼吸に合わせて痰を吸引できるのが特長という。現在は口からの管で開発を進めているが、気管切開でも使えるようにする計画だ。

「認知症の恐れ」に受診義務…改正道交法が成立

(2015年6月11日 読売新聞)

認知症の高齢ドライバーによる事故を防ぐため、75歳以上の運転免許制度を見直す改正道路交通法が、11日の衆院本会議で可決、成立した。免許更新時に「認知症の恐れ」と判定された場合に医師の診断を義務づけ、正式な診断が出れば、免許停止が取り消しとなる。公布から2年以内に施行される。

警察庁によると、75歳以上のドライバーが昨年、全国で起こした471件の死亡事故のうち、記憶力低下など認知機能の衰えが疑われた人の事故は4割近く。全国の警察が昨年までの4年間に把握した高速道路の逆走は837件で、うち79件は運転者に認知症の疑いがあった。

現行では、75歳以上のドライバーは、3年に1度の免許更新時に認知機能検査を受ける必要があるが、「認知症の恐れ」と判定された場合も、過去1年間に信号無視や逆走など認知症が疑われる違反がなければ、診断を受ける必要はなかった。

発行元

無料体験マッサージ、いつでもお気軽にどうぞ
【医療保険適応 訪問マッサージ・はりきゅう】